

平成27年度 水道産業国際展開推進事業
「ベトナム社会主義共和国・現地調査」
に関する参加希望者説明会

日時：平成28年1月19日(火) 13時30分～14時30分
場所：パシフィックコンサルタンツ株式会社 首都圏本社
テラススクエア 16階 1601会議室

○議事次第

1. 挨拶（厚生労働省より）
2. ご出席者のご紹介……………資料1
3. 本現地調査等の概要について……………資料2
4. 調査対象に関する情報について……………資料3、4、5
5. 参加方法、現地行程等連絡事項……………資料6、7

○資料

資料1 : ご出席者リスト
資料2 : ベトナム社会主義共和国現地調査の開催ご案内
資料3 : 組織図
資料4 : 現地調査対象に関する情報
資料5 : Thu Duc Water Treatment Plantのスライド資料
資料6 : 連絡事項
資料7 : 予定訪問先の位置

参考 : 企業紹介資料サンプル

以上

厚生労働省 平成 27 年度水道産業国際展開推進事業

「ベトナム社会主義共和国現地調査」 参加者募集(事前説明会・本調査)

平成 27 年 12 月 24 日

厚生労働省医薬・生活衛生局

生活衛生・食品安全部

水道課

厚生労働省では、日本の水道産業の国際展開を支援するため、水道産業国際展開推進事業を実施しています。今年度は、ベトナム社会主義共和国を本事業の対象国の1つとし、日本の民間企業や水道事業者などのご参加のもと、下記のとおり上水道案件に関する現地調査を実施します。

ベトナム社会主義共和国における事業展開をお考えの日本国内の民間企業、水道事業体、各種機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

記

- 1 目 的 ホーチミン市及びバリア・ブンタウ州における上水道事業の課題について現地調査を実施し、ベトナムにおける日本の水道産業の展開を支援する。
- 2 内 容 ホーチミン市の水道事業を運営するサイゴン水道公社(Saigon Water Corporation : SAWACO)及び、バリア・ブンタウ省の水道事業を運営するバリア・ブンタウ省水道公社(Baria-Vungtau Water Supply Joint Stock Company: BWACO)における課題やニーズの把握、意見交換、関連施設の現場踏査
- 3 期 間 平成 28 年 2 月 23 日(火) ～ 2 月 25 日(木)の 3 日間を予定 (添付参照)
- 4 費 用 渡航費、宿泊費、移動費等は自己負担
- 5 事前説明会 以下のとおり説明会を開催します。
 ○日 時 平成 28 年 1 月 19 日(火) 13 時 30 分～14 時 30 分
 ○場 所 パシフィックコンサルタンツ株式会社 東京本社
 千代田区神田錦町 3 丁目 22 番地 テラススクエア 16 階会議室
 (地図: <http://www.pacific.co.jp/company/location/kanto/index.html>)
 ○申込方法 出席希望の方は、1 月 15 日(金) 17 時までに、下記事務局まで E-mail にて、件名を「H27 ベトナム現地調査説明会出席申込」とし、住所・氏名・所属・電話番号をご明記の上、ご連絡ください。
 【事務局】 パシフィックコンサルタンツ株式会社
 担当: 森本、水井、森山
 E-mail : H27suido@ss.pacific.co.jp
 (事務局共有アドレス)
- 6 現地調査参加申込方法 参加希望の方は、平成 28 年 1 月 29 日(金) 17 時までに、上記事務局まで E-mail にて、件名を「H27 ベトナム現地調査参加申込」と記載し、参加を希望する日程、ご参加される方の氏名・所属・役職名(それぞれ和英併記)、現地で連絡のつく電話番号、E-mail アドレスをご明記の上、ご連絡ください。

ベトナム社会主義共和国現地調査 行程案

日程	イベント	備考(事務局の行程)
2月23日 (火曜)	日本⇒ホーチミン 午後 ◆在ホーチミン日本国総領事館訪問(表敬)	ホーチミン泊
2月24日 (水曜)	9:30 ◆サイゴン水道公社訪問・協議 ・SAWACO による説明会、意見交換会 14:00 ◆現場踏査 ・Thu Duc 浄水場および取水ポンプ場等の現場踏査	ホーチミン泊
2月25日 (木曜)	午前 マイクロバス移動(約2時間～2時間半) 14:00 ◆バリア・ブンタウ水道株式会社訪問・協議 ・BWACO による説明会・意見交換会 16:00 ◆現場踏査 ・関連施設等(水源、既存取水場/浄水場等)の現場踏査 現地解散	バス移動 (ホーチミン⇒バリア・ブンタウ省) バス移動 (バリア・ブンタウ省⇒ホーチミン) ホーチミン泊
2月26日 (金曜)	ホーチミン⇒日本	

※1 行程は現時点での案です。今後、変更となる可能性もあります。

※2 現地集合、現地解散を基本とします。また、ご希望のイベントのみの参加も可能です。

※3 ホーチミン市からバリア・ブンタウ省への移動については、事務局でバスを手配予定です(費用一部負担有り)。

※4 下記に訪問予定先に関する情報を一部示しています。詳細な内容は、事前説明会時(1月19日開催)にご案内します。

◆サイゴン水道公社(Saigon Water Corporation: SAWACO)

- ・ ホーチミン市の水道を管轄。大阪市水道局と2009年に「技術交流に関する覚書」を締結。
- ・ “Master Plan for HCMC water supply system up to 2025”において、2025年までにホーチミン市の給水能力を340万m³/日にまで引き上げる目標を策定。

◆Thu Duc 浄水場

- ・ 施設能力:750,000m³/日(Binh An BOT 浄水場、BOO Thu Duc 浄水場をはじめとするホーチミン市内の浄水場と比べ、最大規模。ホーチミン市全体の施設能力の約50%を占める)。
- ・ 1966年に運営開始(当時の施設能力:350,000m³/日)、数年ごとに拡張。
- ・ 将来に向けた課題は薬品注入の自動化、急速砂ろ過池の改修など。

◆バリア・ブンタウ水道株式会社(Baria-Vungtau Water Supply Joint Stock Company: BWACO)

- ・ ホーチミン市南東にあるバリア・ブンタウ省の水道事業体。浄水場は6箇所。
- ・ バリア・ブンタウ省は近海での原油産出、大規模な工業団地、観光業など、経済力豊かな地域。
- ・ 顧客管理システム、管路GISシステムなど、GISやITを積極的に導入。
- ・ 平均配水量:145,000m³/日(最大配水量は180,000m³/日)、管路延長(φ100mm以上):677km

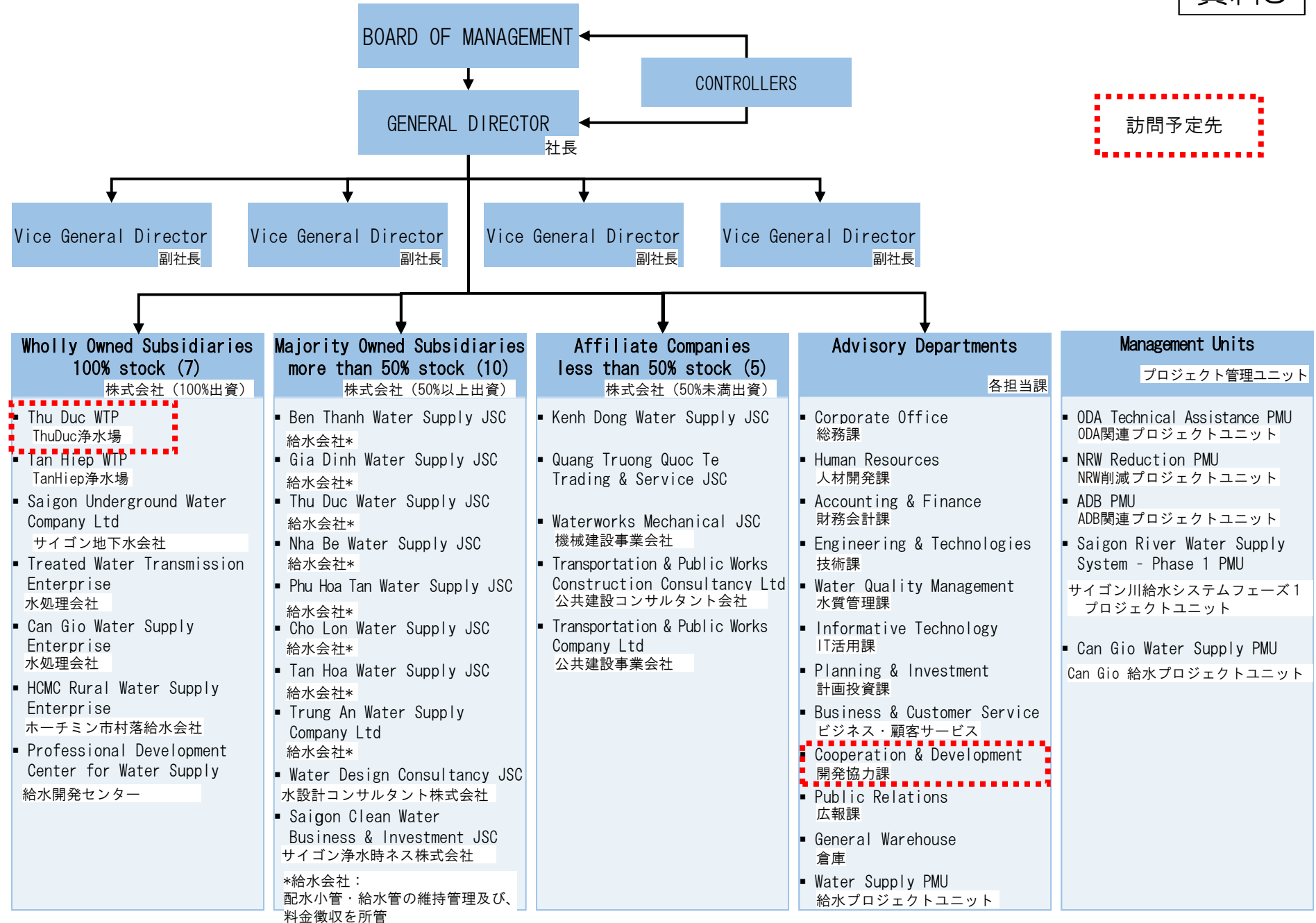
◎本現地調査に関するお問い合わせ先(事務局)◎

パシフィックコンサルタンツ株式会社(厚生労働省「平成27年度水道産業国際展開推進事業」受託者)

担当:森本、水井、森山 TEL:03-6777-3754 E-mail:H27suido@ss.pacific.co.jp

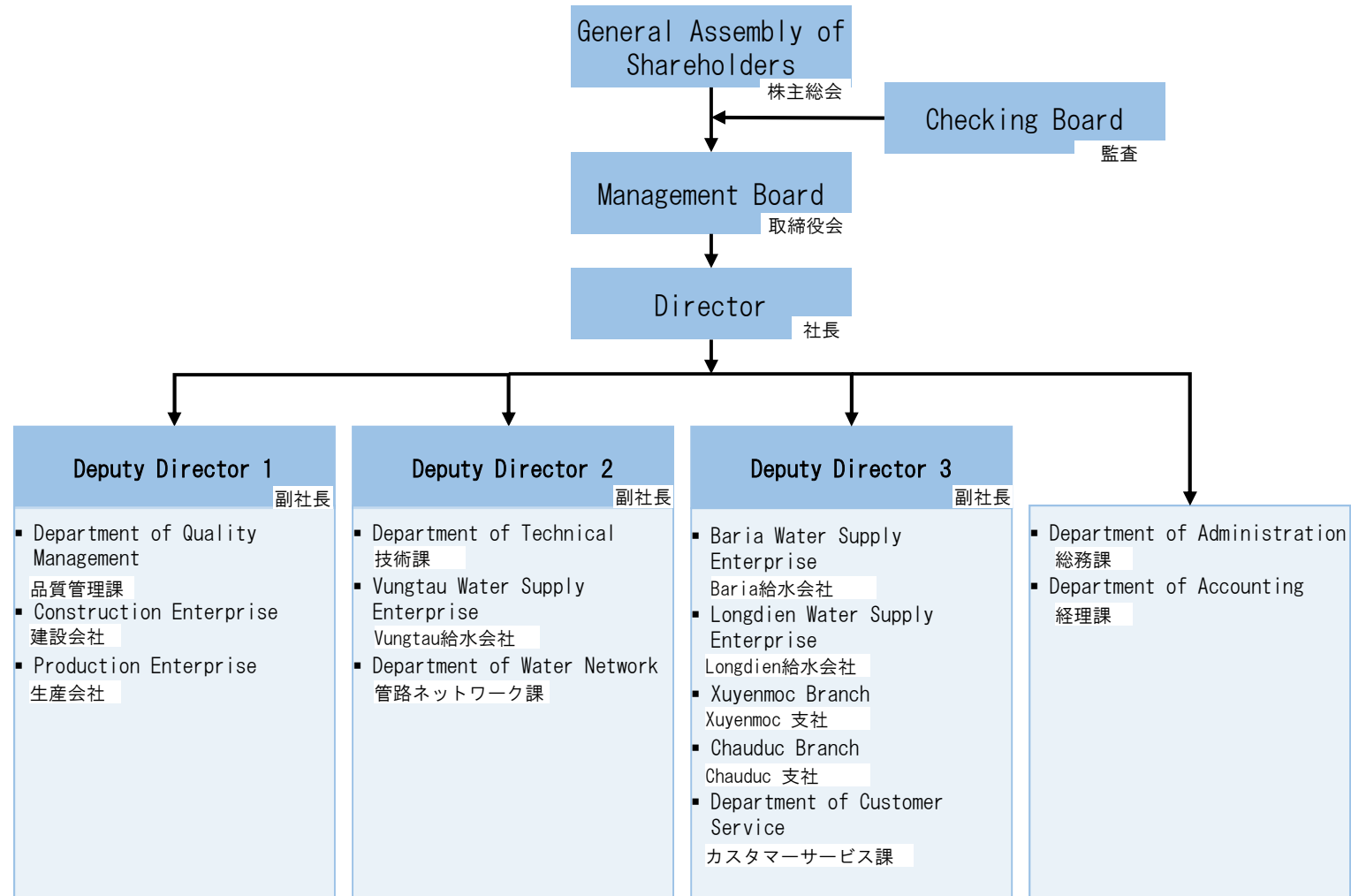
サイゴン水道公社 (SAWACO) の組織図

資料3



訪問予定先

バリア・ブンタウ省水道株式会社 (BWACO) の組織図



現地調査対象に関する情報

➤ ベトナムにおける水道事業に関する情報

◇ 所管機関

- ・ ベトナムにおける都市水道の関連省庁は、計画、建設については建設省(Ministry of Construction: MOC)、水質については保健省(Ministry of Health: MOH)が所管。
- ・ 水道事業は各省に分権化され、各地の水道公社等が実施している。水道料金や計画に関しては人民委員会の承認が必要。

◇ 新 PPP 規則(Decree No.15/ND-CP)

- ・ ベトナム政府は 2015 年 4 月、PPP 型の投資に関する規則(Decree No.15/ND-CP)を新たに施行。給水システムに関するプロジェクトもその対象。
- ・ ODA 資金を含む政府支出割合の上限撤廃(条件付)、PPP 型投資とされる投資方式が広がるなど投資しやすい環境が整備されつつある。

➤ 現地調査

◇ ホーチミン市について

- ・ 人口：7,981,900 人 (2010 年)
- ・ 面積：2095.6 km²
- ・ 人口密度：3,809 人/ km²
- ・ 水道普及率：89%

◇ サイゴン水道公社(Saigon Water Corporation: SAWACO)について

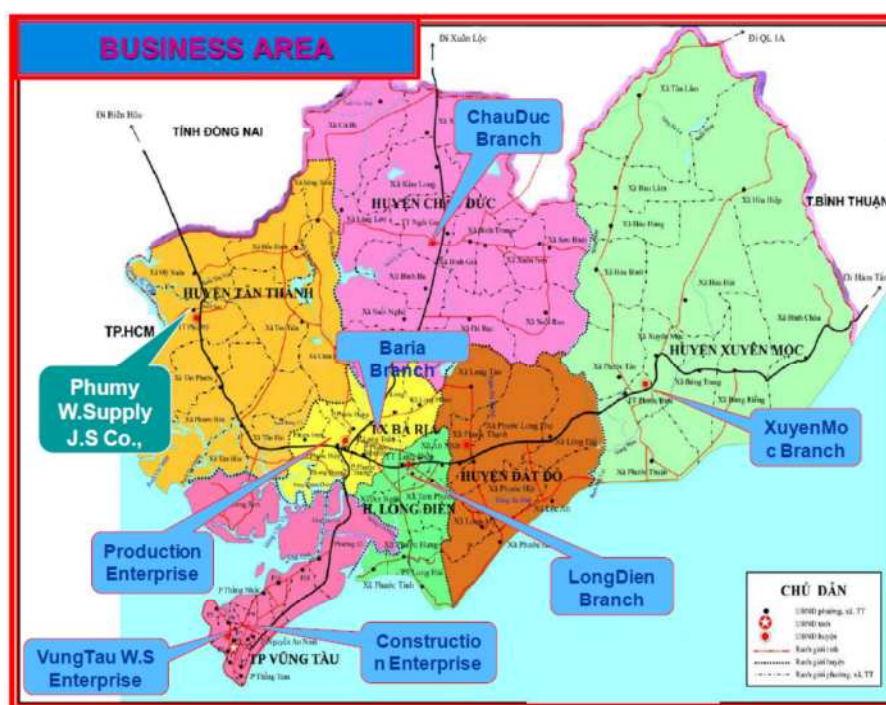
- ・ ホーチミン市における給配水事業の中心となる水道事業体。
- ・ 給水戸数：615,809 戸 (2007 年)
- ・ 給水能力：152 万 m³/日 (2013 年)
- ・ 無収水率：34% (2013 年) ※2025 年までに 25%まで下げる計画
- ・ “Master plan for HCMC water supply system up to 2025” を策定
- ・ ホーチミン市内の BOT、BOO 事業によって運営されている民間浄水場は 2 箇所 (Binh An BOT WTP, BOO Thu Duc WTP)
※今回の現場踏査を行う予定の浄水場(Thu Duc 浄水場)は SAWACO による出資 100%の子会社 (別紙組織図参照)

☆ バリア・ブントウ省について

- ・ 人口：1,059,500 人 （2014 年）
- ・ 面積：1,982km²
- ・ 人口密度：533 人/ km²
- ・ 位置：ホーチミン市から東南東へ 90km
- ・ 工業団地を擁し、国内外から投資が行われている
- ・ 主な産業：石油産出、鉱業、海岸リゾート地を生かした観光業

☆ バリア・ブントウ水道株式会社 (Baria-Vungtau Water Supply Joint Stock Company: BWACO) について

- ・ バリア・ブントウ省の水道事業体
- ・ 1982 年創設、2004 年に株式会社化し、2005 年にバリア・ブントウ省公営化、2007 年に株式会社化し、バリア・ブントウ省の資本割合を半分に
- ・ ISO 9001, ISO17025 取得
- ・ 給水戸数：149,500 戸
- ・ 給水人口：67 万人 （水道普及率：87%）
- ・ 平均配水量：145,000 m³/日
- ・ 1 日最大配水量：180,000m³/日
- ・ 管路延長：677km
- ・ 無収水率：8%
- ・ 給水収益：1,850 億 VND (約 9 億 7,200 万円)
- ・ GIS や IT の導入に積極的（浄水場システム、顧客管理システム、管路 GIS システムなど）
- ・ 人材育成を重視し、2014 年の投資額は 20 億 VND(約 1 千万円)



BWACO の給水エリア

5.3 プロジェクトサイトにおける現地調査等の実施

5.3.1 現地調査等の概要

平成 27 年 1 月下旬、ハイフォン市水道公社への技術協力実績を有する北九州市上下水道局の協力のもと、ハイフォン市及びクアンニン省を対象とする現地調査等を実施した。

5.3.2 在ベトナム日本国大使館における意見交換

在ベトナム日本国大使館への表敬訪問には企業 6 社が参加した。主な意見交換の内容を記す。

【意見交換の主な内容】

- ・ ベトナムにとって日本は最大の援助国で、援助額は約 2,000 億円/年。(2 位は世界銀行)
- ・ 日本の援助額には近年は大きな変化はないが、今後は無償から有償へ移行傾向である。
- ・ 無償は日本政府の直接援助だが、有償援助は現地政府発注なので、受託企業にとって資金回収が難しくなる(代金回収が反故になる)ことがある。
- ・ ベトナム政府(特に財務省として)は外債の抑制を進めているため、有償案件の採択に際しては地方で OK でも中央で拒まれることもよくあるので、留意が必要。
- ・ 本邦企業の事業参画のツールとしては、JICA 中小支援事業、METI の F/S、JICA の PPP F/S 等がある。
- ・ 一般的に BT 事業(例:企業の自己資金による浄水場整備との等価交換で周辺の開発権を取得するようなスキーム、など)が実施されている。

5.3.3 ハイフォン市における現地調査等

平成 27 年 1 月 26 日及び 27 日の 2 日間、ハイフォン市における現地調査等を実施した。現場踏査は、26 日はビンバオ(Vinh Bao)浄水場、27 日はハイフォン市水道公社による現地説明会の後、アンズオン浄水場を訪問した。

1) 現地説明会

現地説明会には、企業 19 社が参加した。

ハイフォン市の水道事業の概要及び課題とニーズについての説明の後、参加企業の自己紹介と質疑応答を行った。

【ハイフォン市水道公社による説明内容】

○ 現在の状況について

- ・ ハイフォン市の面積は 1,500km²、人口は約 190 万人である。ハイフォン市水道公社は都市部 7 区域、郊外部 8 区域に上水供給している。

- 給水人口は約 110 万人。原水は 99.5%が河川からの取水で、市内 7 つの浄水場から、5 つの給水区域に、平均 180,000 m^3 /日 を供給している。直径 300mm 以上の管路の総延長は 170km、最大規模の浄水場は、140,000 m^3 /日のアンズオン浄水場である。
 - 昨年の実際の供給量は 6,180 万 m^3 。このうち有収水は 5,460 m^3 であり、無収水率は 14%未満である。浄水後の水質は、濁度が 0.2~0.4NTU、残留塩素は 0.6~0.8 mg/l で、ベトナムの水質基準と国際基準を満たしている。
 - 主な課題は、水源汚染、気候変動対策、資金調達 の 3 点。さらに、人口増加や先進技術導入の際の障害なども課題である。水質対策については、世界の先進技術の導入に努力している。
- 将来の拡張計画
- 将来の拡張計画は、アンズオン浄水場の拡張(供給量を現在の 140,000 m^3 /日から 200,000 m^3 /日へ)、3 つの新規浄水場建設(各 25,000 m^3 /日)、80km の管網延長、2 万戸の接続数増加である。
 - 今後、2020 年までに全 10 箇所の浄水場で合計 425,000 m^3 /日、2030 年までに 12 箇所の浄水場で合計 728,000 m^3 /日、2050 年までに同じく 12 箇所の浄水場で合計 1,265,000 m^3 /日の拡張計画である。

【質疑応答の主な内容】

- ハイフォン市水道公社で今後導入したいと考える技術は、浄水場に関しては、運転自動化、管網管理、塩素・オゾン の組み合わせ処理である。また、管路に関しては、バルブや消火栓、掘削技術による漏水調査に関心がある。
- 一日一人当たりの給水量は、現在 150 $\text{L}/\text{人}\cdot\text{日}$ であるが、将来は 180~200 $\text{L}/\text{人}\cdot\text{日}$ まで上がると見込んでいる。
- 最大の水質汚染要因は生活排水である。汚染物質の上位 4 つは、有機物、アンモニア、窒素、バクテリアである。
- 水道公社独自調達は、事業費が 50,000USD 未満の場合である。50,000USD 以上の場合の入札プロセスは、資金源に応じて、国の規程に基づく一般入札、もしくはドナーの規定に基づく国際入札となる。ただし例外として、国内に事例のない先進 11 技術の導入の場合は、国際入札の申請を行う。したがって、ベトナムの現地法人の設立が推奨される。
- 2015 年にハイフォン市水道公社では民営化が計画されているが、民営化後も、65%の株式を国が保有しているため、入札のルールに変更は無い。国の保有する株式が全体の 30%以下の場合、民間入札での実施が可能になる。



図 5-1 ハイフォン市での現地説明会の様子

2) 現地踏査(ビンバオ浄水場)

平成 27 年 1 月 26 日にハイフォン市内のビンバオ浄水場にて現地踏査を実施した。日本側からは企業 9 社が参加した。

【視察結果】

- ・ ビンバオ浄水場は JBIC の 130 億 VND の資金援助で 2001 年に着工し 2006 年から稼働
- ・ 当時の浄水能力は 2,500 $\text{m}^3/\text{日}$ だったが、2012 年に 5,000 $\text{m}^3/\text{日}$ に拡張した。現在の実浄水量は約 4,000 $\text{m}^3/\text{日}$ 。給水人口は約 3.5 万人。戸数は約 8 千戸である。
- ・ 2013 年に北九州市上下水道局の支援により前処理用の U-BCF を増設した。U-BCF はアンモニア、窒素、マンガンの処理に有効で、養鶏場などが上流域や河川周辺に多いためアンモニアや有機物の含有量が多い原水の前処理として有効である。
- ・ U-BCF を導入した主な理由は、従来の塩素処理は費用が嵩むという課題があったアンモニアの除去。



図 5-2 ビンバオ浄水場における現地踏査の様子

3) 現地踏査(アンズオン浄水場)

平成 27 年 1 月 27 日にハイフォン市内のビンバオ浄水場にて現地踏査を実施した。日本側からは企業 13 社が参加した。

【視察結果】

- ・ アンズオン浄水場は 1960 年建設。建設当時の供給量は 20,000 m³/日。1970 年に 40,000 m³/日に増量し、供給量は 60,000 m³/日になった。2000 年頃、世界銀行の支援事業によって供給量が 100,000 m³/日となった。
- ・ 現在の無収水率は 13% 程度。近年、水需要量が増加してきたため、現在では生産能力を 140,000 m³/日に上げ、ハイフォン市内 5 つの給水区、約 100 万人分を供給している。
- ・ また現在は、アジア開発銀行による支援事業第 2 フェーズの浄水能力拡張の実施段階で、設定目標はハイフォン市内人口 75% への供給である。
- ・ 北九州市上下水道局の協力で 100,000 m³/日規模の U-BCF の導入を予定しており、完成すれば供給量も増加するものと考えている。
- ・ 平均水道料金は 10,000VND/m³ (工業用水:15,000VND/m³、家庭用は 8,000VND/m³、商業施設用は 18,000VND/m³) で、給水原価は 3,000VND/m³、使用電気量は

0.24kw/m³ で給水原価の 6%である。

- 沈殿地での濁度は平均 30NTU で、最大 50NTU。処理水の濁度は 0.1～0.3NTU。浄水処理は、アンストラサイトと砂の二層ろ過。
- 特に大きな課題はないが、設計供給能力 100,000 m³/日のところ実際の生産量を 140,000 m³/日にしていることが一番の課題。U-BCF によって対応できていると考えている。



図 5-3 アンズオン浄水場における現地踏査の様子

5.3.4 クアンニン市における現地調査等

平成 27 年 1 月 28 日にクアンニン省における現地調査等を実施した。午前にはクアンニン省水道公社による現地説明会、ハイフォン市内のドンホ(Dong Ho)浄水場の現地踏査を実施した。

1) 現地説明会

現地説明会には日本側から企業 16 社が参加した。

【クアンニン省水道公社による説明内容】

- 水道公社は 1997 年に設立。株式会社の形態だが、国が株式の 95%を保有している。
- 現在の供給量は 174,000 m³/日で、取水源は、地下水が 27,000 m³/日分、表流水が 147,000 m³/日分の内訳割合である。
- 管路総延長は 1,416km。カバーエリアは、省内 14 の行政区域のうち 12 区域で、接続

数は約 188,000 戸、都市部の普及率は 93%。漏水率は 21.5%。

- ・ 給水原価は 5,500VND/m³ で供給単価は 6,000VND/m³。利益率は 5%程度である。
- ・ 2016 年にかけて、以下のプロジェクトを計画している。プロジェクトの資金源について、進行中のプロジェクトの資金は世界銀行だが、2016 年までのプロジェクトの資金源は、①自己資金、②国家予算、③銀行借入、④外国ドナーの無償もしくは融資、の 4 方策あり、これらの組合せもある。④のドナーは ADB、JBIC、WB などを検討している。
 - ◇ Dien Vong 浄水場：現在の供給量 60,000 m³/日を 90,000 m³/日に拡張
 - ◇ Lan Thap 浄水場：現在の供給量 20,000 m³/日を 30,000 m³/日に拡張
 - ◇ Dong Trieu 地区：5,000 m³/日の浄水場を新設
 - ◇ Van Don 地区：第 1 フェーズで 5,000 m³/日の浄水場を新設
 - ◇ Hai Ha 工業団地：110,000 m³/日の浄水場を新設（総額 1 兆 VND）
 - ◇ Mong Cai 地区：15,000 m³/日の浄水場を新設
- ・ また、資金調達に関して、民間資金活用も考えられる。合弁事業形態や資金力を有する投資家との連携なども考えていきたい。
- ・ 漏水率の軽減策として、管路更新、漏水調査の徹底、管網管理のための GIS システム導入、などを考えており、GIS も一部で導入している。パイチャイ浄水場などにテレメーターによる管網管理システムを導入しており、水圧、流量などのデータを管理している。



図 5-4 クアンニン省における現地調査の様子

2) 現地踏査

ドンホ(Dong Ho)浄水場現地踏査には企業 13 社が参加した。

【視察結果】

- ・ 浄水場は 1974 年に運用開始。当初は旧ソ連方式で第 1 ろ過池から第 2 ろ過池への方式だったが、2000 年からデンマーク方式となり、両ろ過池の並行運転となっている。ろ過速度は 50m/h で、ろ材の逆洗頻度は 18 時間に 1 回。

- 現在、凝集沈殿でフロックが水中に浮遊してうまく沈殿できていないため、沈殿方式を改良する。
- 塩素注入箇所は取水場と浄水後の 2 箇所。
- 現在の供給量は 20,000 m³/日だが、今年から来年にかけて 10,000 m³/日を増量予定。
- また供給量増加に向けて主水上から浄水施設まで水を配水するポンプを増設予定である。
- 原水の水質については、濁度が通常の乾季では 20~30NTU 程度だが、雨季などは最大 300~400NTU になる。また、色度も多少認められる。



図 5-5 ドンホ浄水場における現地踏査の様子

連絡事項

お申込み等に関するお願い事項

1) 参加お申込み

平成 28 年 1 月 29 日（金）17:00 までに E-mail にてご連絡願います。

件名は、「H27 ベトナム現地調査参加申込」とし、下記情報をお知らせください。

- ① 参加者氏名（和英併記）
- ② 参加者所属（和英併記）
- ③ 参加者役職（和英併記）
- ④ 参加者の現地での電話番号
- ⑤ 参加者メールアドレス
- ⑥ 参加希望訪問先及びその移動手段(チャーターバスへの同乗を希望するか)

2) 企業紹介資料のご作成

現地調査参加企業には、企業及び製品・技術の紹介資料を作成して頂き、SAWACO 及び BWACO への PR に活用します。

ついては、平成 28 年 2 月 12 日（金）17:00 までに企業紹介資料を作成のうえ、返信願います。資料のフォーマットは、お申込み受付時にメールにて送付いたします（企業紹介資料の作成例は[参考](#)をご覧ください）。

お問合せ

個別の相談は、随時メールにてお受けいたします。

事務局連絡先

ベトナム社会主義共和国現地調査 事務局（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

担当：森本達男、水井一成、森山佳奈

E-mail：H27suido@ss.pacific.co.jp

TEL：03-6777-3754、FAX：03-3296-0544

現地での行程について

年月日	連絡事項
2016年2月24日(水)	◆SAWACO 協議 集合時間：9時20分（協議開始：9時30分） 集合場所：SAWACO 建物入り口 住所：No.01 Cong Truong Quoc te, Ward 6, District 3, Hochiminh City (Số 01 Công trường Quốc tế - Phường 6 - Quận 3 - Thành phố Hồ Chí Minh) ※Ho Con Rua (亀池)というロータリー脇、ホーチミン大学の向かい 移動手段：各自 ◆現地踏査 集合時間：13時50分（開始：14時） 集合場所：Thu Duc Water Treatment Plant 住所：02 Le Van Chi Street, Linh Trung Ward, Thu Duc District (2 Lê Văn Chí, Linh Trung, Hồ Chí Minh) 移動手段：各自
2016年2月25日(木)	◆BWACO 協議 協議開始：14時 移動手段：チャーターバス（一部負担あり）※現地集合も可能 集合時間：8時30分（チャーターバス同乗の場合） 集合場所：事務局ホテル前（チャーターバス同乗の場合） 解散：ホーチミン市内事務局ホテル（チャーターバス同乗の場合） ※チャーターバスに同乗しない場合は現地解散

※現時点での予定です。変更の可能性もございます。

◆現地宿泊先

ご自由に選択していただいて全く問題ございません。

事務局宿泊予定ホテル

Liberty Central Saigon Riverside

住所：17 Ton Duc Thang Street, District 1, Ho Chi Minh City
(17 Tôn Đức Thắng, Bến Nghé, 1, Hồ Chí Minh)

電話：+84 8 3827 1717

◆事務局の現地連絡先

参加お申込みいただいた方へ後日改めてお知らせいたします。

バリア・ブントウ省での現地調査(2月25日)

BWACO / Ho Da Den Water Treatment Plant



1. Company Name

Pacific Consultants Co., Ltd.



We add value for a bright future.

PACIFIC CONSULTANTS CO.,LTD.

2. Postal Address

3-22 Kanda-Nishikicho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8462, Japan

3. Contact Person

- Job Title and Name : Chief Engineer, Kazushige MIZUI
- Tel : +81-3-6777-3756 / Fax : +81-3-3296-0544
- Email : kazushige.mizui@ss.pacific.co.jp

4. Delegates



Tatsuo MORIMOTO

*General Manager,
Disaster Reduction and
Water Development Department
Overseas Division*



Kazushige MIZUI

*Chief Engineer,
Disaster Reduction and
Water Development Department
Overseas Division*



5. Company Profile

Pacific Consultants has been a frontrunner for more than a half century and one of the largest construction consulting firm in Japan. We have over 1,500 full-time staff, including over 600 Professional Engineers, 63 1st Class Certified Architects, and 34 Doctors. Net sales reached approx. 40.5 billion JPY (over 4,570 billion IDR) in 2014. We have expertise in wide range of civil engineering, such as railroads, dams, ports, and many other public facilities and structures.

In water sector, we provide water supply engineering, sewerage engineering, engineering related to water source development, and management of PFI/PPP. We have experienced numbers of study and project in more than 50 cities over the world.

